

〔出席委員〕 小谷次雄、西坂千代子、吉田知子、西田里沙、福田美紀、荒瀧美由紀、  
村岡亜樹、新川裕二、永田彰寿、笠見猛、山下千之、笠田直樹 (敬称略)

1 開会	
司会	(開会の宣言)
① 倉吉市立関金小学校・山守小学校の閉校と新「倉吉市立関金小学校」の開校について (諮問)	
② 開会挨拶	
会長	こんにちは。第2回の倉吉市学校教育審議会を開催したところ、都合をつけていただき感謝する。先ほど教育長から、関金小学校・山守小学校の統廃合に関する諮問を受けたが、後の協議でいろいろと説明を聞きながら、皆さんの意見を伺いたい。本日はそれに加えて、教育振興基本計画について皆さんの普段の思いを話していただきたい。
教育長	教育委員会からの報告をさせていただきたい。倉吉市の教職員の飲酒運転が、5月・7月と続けて発生している。5月については小学校の学校主事(市臨時職員)が、酒気帯びで運転していたところをパトカーに止められた。7月23日の件は、そこのペーパーに書いてあるが、河北小学校の教諭が自家用車を飲酒運転して交通事故を起こし、相手方は肋骨や足を複雑骨折し重傷。これは小学校の1学期反省会の後、同僚と数人で2次会・3次会と行き、帰りはタクシーに同僚と同乗し送り届けたわけだが、そこからなぜか自家用車を運転して交通事故を起こしている。現在拘留中で調査中である。7月24日には、臨時小中学校長会を開催した。各学校で教職員に対して、教育長からの緊急メッセージを発出した。このメッセージをもとに、一人一人が自分の考えをまとめ、その後全教職員で協議した報告を受けている。今後も予断を許さないところではあるが、任命権者は県教委であるので今後協議しながら処分が決まることになる。大変ご迷惑をおかけした。また、最近の報告事項としては、伝統文化体験教室に現在小学生が64名参加する予定である。中学校については、先だって中国大会・全国大会に出場する生徒の激励会を実施した。また、倉吉市初等教育研究会が8月3日に、元文科省教科調査官である相澤先生を招いて示範授業・授業研究会を行い、大変有意義な研修会となった。今後とも教育委員会と学校とが一緒になりながら信頼回復に向けて努めていきたい。
司会	資料確認
2 協議	
事務局	説明 (1) 倉吉市立関金小学校・山守小学校の学校統合について
会長	地域の方も大変だったと思うがここまでたどり着いた。今日は「もうすでにできているものをなぜ審議するのか」という意見もあるかと思う。以前あった校区審議会を学校教育審議会がその役割を果たすと変わり、議会や議員が入らない組織になった。従って、この会で諮問を受けて了解すると議会にかかって正式決定という段取りになる。
委員	山守という名前は全てなくなるのか。
教育長	学校に関してはなくなるが、地区名としては残る。
会長	小学校の場所は関金小学校に置くのか。
教育長	その通り。今、課題は放課後児童クラブをどこに置くのかということ。子ども家庭課で調整をしている。
会長	山守小学校の跡地はどうなるのか。決まっているのか。
教育長	議論している最中である。これは教育委員会だけではとても太刀打ちできる問題ではない。4月からは普通財産になるので財政課の受け持ちになる。しばらくは避難場所として使うが、次にどうしていくのかは皆さんの意見を聞きながら決めていく。スクールバスについても、文部科学省の購入の補助金の内定をいただ

	いた。全国的にバスの需要が非常に多くて、今年度中に納車が間に合わないかと心配したが、何とか間に合いそうで一安心している。校舎の改修にあたって、洋式トイレと教室の間仕切りを考えているが、統合して8月に工事にかかる予定である。
会長	新しい専用のバスが入るのか。
教育長	その通り。スクールバスの購入もだが、運営費にも交付税措置があるので、市の持ち出しは少なくなる。
会長	それは1台か。
教育長	1台。中型バスで40人乗りのものを考えている。本来は新しい学校と旧小学校との間を運行するのが原則だが、もう少し上の明高のあたりから児童を乗せて、下に降りて小泉・米富・福原の子を乗せて山守小学校に行き、今西の子ども達を乗せて関金小学校まで行く経路である。バス停までは子ども達はだいたい1～2km歩くことになる。今までも歩いて登校しているし、そんなに朝早く家を出るわけではない。
会長	そこしかバスは使えないか。
教育長	基本的には登下校をメインで契約をしようと思っているが、加えて学校行事にも使えるような契約内容にしようと思っている。
会長	他の学校では使えないか。
教育長	ちょっと難しい。
会長	山口の子に使うわけにはいかないか。
教育長	関金小学校区内なので、そこであれば可能か。ただルートを届け出る必要がある。
事務局	「山口の子は4km以上の遠距離通学である。この子達をどうするのか。」という議論はあった。全体を見ると、今まで通り歩かせるのがいいのではないかということになった。すぐ近くの公民館前まで来てほしいという保護者もあったし、清水の保護者はちょっと歩かせたいという意見であった。いろいろな意見があったが、全体の話の中でだいたいこれでどうかとなった。 また後で通学路の地図を配らせてもらう。
教育長	こういう協議も何回か重ねてきて合意を得た。
会長	関金の保護者としていかがか。
委員	今度、山守小のPTAとも会がある。まず役員から交流を。また、子ども達の集合学習に保護者が参観できる授業が何回か計画されている。「お互い関わってやっていかないと」という感じはある。今後の会でもう少し近寄れたら。
会長	いい統合になるようによろしくお願ひしたい。
事務局	答申していただけるということでしょうか。
会長	はい。
事務局	説明 (2) 第2期倉吉市教育振興基本計画 学校教育課重点施策(案)について 学校教育基本方針について
会長	ご意見があれば。
委員	地域学校委員会の位置づけは、正直言って教育委員会主導のもの。まだ始まったばかりのこの段階で「有効活用」を記述することはどうか。中長期的に地域学校委員会を機能化していくときに、あえてここまで書く必要があるかと思っている。むしろ、地域学校委員会の役割を明確にし、その機能をもっと高めていくために地域の取組を進めていきますという書きの方が、心理的にはなじむ表現になるのではないか。この表現だと地域学校委員会を知っている方しか分からない。逆に言うと狭めてしまう危惧を持っている。
事務局	第2期が、「28年から5年間を目指して」ということでちょっと背伸びしているところがある。

委員	「課題の発見・解決に向けて主体的・協同的に学ぶ学習をさらに充実していく。」とあるが、とても大事なことだと思う。協同的に学ぶことは想像できるが、主体的に学ぶ学習というのがどういうスタイルなのかよく分からない。主体的に学ぶということは、生徒に自由にさせておけばいいという考え方が高校では強かった時期がある。主体的な学習をさらに充実させるということについて、教育委員会として学校としてやり方のイメージをしっかりとっておくことが必要であろう。実際に動き出すときには、どうしたらいいのかわからないという事態が起こらないとも限らない。
会長	先程の委員さんが言っていたことが気になる。
委員	地域学校委員会の扱い方が前に行き過ぎている。結論から言うと、地域の大人達をいかに教育・学校に対して関心を持たせるかが基本。その意味で地域学校委員会をどう活用するかと考えたときに、ちょっとまだ早いかと。
教育長	一番のねらいは、学校と地域とが一緒になって子ども達を育てていくこと。
委員	文章に「本市」という表現はあるが、「倉吉」という言葉が1つも出てこない。重点施策の一番大きなところなので倉吉という言葉がほしい。「本市」を「倉吉市」という表現にしてはどうか。
事務局	学校教育分野や社会教育分野など全体を見た上で調整させていただく。
事務局	説明 (2) 第2期倉吉市教育振興基本計画 学校教育課重点施策(案)について 重点施策①～④について
会長	①についてご意見は。
委員	幼保小の連携カリキュラムについて、校区によってはできているところもあるがカリキュラムがない校区の方が多いと思う。ある中学校区では前年度中につくりたいとは思っていたが、なかなか時間の確保ができなかった。1回でできるものではないので、何回も集まってつくることになるのだが、小学校部会と就学前部会で都合のいい日が設定しにくい。園や小学校主導ではなくて、市から通知を出しても場をつくらなければ時間を確保することが難しい。県が作成したカリキュラムもあるが、校区の地域性もあるし、より現場に即したものをつくらうかと思えば結構時間はかかる。
事務局	倉吉市幼児教育研究会が年に1回あるが、これも有効活用させていただければと思う。前回の指標にしていた「子ども同士・教員同士の交流」は、計画的に意図を持って交流できるようになったかと思っている。5年先を目指したときに、これよりは保幼小連携カリキュラムをちょっとずつ積み上げる方が有効かと判断した。
委員	幼児教育の成果指標が小学校の割合になっているが、幼児教育をやっているところの成果指標が出てこないのは、教育委員会の管轄の公立幼稚園がないということか。
事務局	一般的には、教育委員会の管轄になるのは公立の幼稚園。県内には、保育園・保育所も教育委員会の管轄にしているところがないわけではない。教育振興基本計画の成果指標に、他部局の所管のものをあげるのは遠慮がある。だから小学校の割合をあげている。
委員	今、現実問題として、保幼小のつながりをしっかりやっているからもったいないと思う。表現的にはなかなか難しいということか。
教育長	スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムを入れることによって、幼保の取り組みもある程度は反映できるのではとの思いもある。
委員	あれば指標になってとてもいいと思う。
教育長	西郷小学校が開筵式を行うが、小学校に入学する子ども達が2月の寒い時に、筵に座って30分近くじっといい子で座っている。これも、ここまで育てるという目標としてある1つの連携のいい例かと思う。

会長	②についてお気づきの点はないか。
委員	英語やタブレットなど新しいことが入ってくるが、持てる家と持てない家の格差が、開いてしまう不安がある。そこの手立てをしていかないと、積み残しのまま進級してしまう子もあれば、最先端の教育環境で学習する子もあり、その差がドンドン開く恐れを感じている。個を見つめた施策があってもいいのではないか。具体的に手立てをしっかりと考えて行かないと。保護者も新しいことに踊らされてしまう。逆に、してやりたくてもできない家庭もある中で、意欲をなくす子が増える状況になってはいけない。子どもが意欲的に学ぶ体制づくりが必要である。
会長	全体的には倉吉の子どもの学力はいい方か。
教育長	教科や学年によって違いはあるが全国よりは上である。小6で全国学テを受けた児童が、中3でどれだけ伸びたかというデータがある。全国を100とすると、小学校の時は国語も算数も103くらい。中3になると国語は101に落ち、数学は105～106まで上がる。
委員	県によって特色・伝統がある。島根は中学校で国語がぐんと伸びる。小学校時は低いが中学校では全国でも上の方に行く。強み弱みを正直に相談し合って勉強することも大事か。
会長	点数ばかりではない。どの教科でも嫌いな子をつくってはいけない。点数は悪いけど好きだという子は伸びてくる。個の追跡調査は効果がある。難しいがある程度はできるか。
委員	日本は先進国の中で、教育費がダントツに低いと言われ続けている。子どもの貧困率が高くなってきて、貧困の子は放っておかれている。持てる子の家庭は、例えば英語の教室に入るとか、数学が苦手になってきたから塾に行くとかできるが、貧困家庭にはそれができない。貧困を抱えている家庭にどういうことができるかということも、学力向上の推進には関わりがある。
委員	「特色ある中学校区教育の推進を図る中で」につながる文章が適切ではないと思う。その後にかかれていることは各中学校で取り組むべきことであって、「特色ある中学校区教育を推進する」ことによって基礎的な知識及び技能を習得させるのであれば、倉吉市として小中一貫教育・一貫校等を実施するということになるのではないか。「特色ある学校づくりを図り」であればスッと読めるのだが。主要施策にかかれているように、「特色ある中学校教育（小・中連携）の推進」によって、学習支援・合同研修会・教科担任制が実施されるのが正しいと思う。書き方が矛盾している。小中連携に力を入れているのは予算的にも認める。その結果として導かれるのは、子どものスムーズな適応を図るとか、9年間を見通した共通の教育実践、授業力の向上になるのではないか。基本は各学校ではないのかと思う。
事務局	整理をする。市としては一貫校までは考えていない。連携教育でできることを模索したい。
委員	ICTの活用推進のタブレットのことだが、5年間で1人に1台使えるような配置を考えているということか。
事務局	できたらいいなどは思って予算をはじめてみたが、とても膨大な予算になってしまい倉吉市で実現することは不可能だと考えた。例えば、研究推進校的にどこかの学校または中学校区で研究していくことが現実的なのか。国のいい事業があれば乗りたいとは思っている。
委員	元気はつらつ教員補助は児童生徒支援加配なのか。日本語指導教室が削除されているが、外国にルーツを持つ子ども達への支援が、今少しずつ広がっている中で、そのあたりは意識しているのか。
事務局	児童生徒支援加配は県費による加配であり、市費による元気はつらつ教員補助とは違う。外国にルーツを持つ子ども達への支援だが、実際に上灘小学校で5～

	6年前、外国語支援ということで加配が1人ついてた。今、市内で、中国籍のお子さんが入ってこられて非常に苦慮している状況がある。他にも入る可能性のある学校もある。ただ、外国語支援の加配となると、もっと多くの支援を必要とする自治体が優先され、倉吉市への配置は想定されない状況にある。なので、国際交流財団等に支援を求め、予算も付けて充実させていきたいと思っている。
会長	外国にルーツを持つ子ども達が増える傾向にはあるのか。
委員	その傾向にあるので意識はしておかなければと思う。
事務局	最近の傾向として、全く日本語の知識もないのに入ってくる例がある。英語もちょっとだけというお子さんが入ってくる。
会長	③について何かあるか。
委員	中部子ども支援センターを利用できない家庭もある。そこまで出かけて行けない。中学校区に1つあると一番利用しやすい。また、中学校区だとバックアップしてもらえる方も見つかるのではないか。中学校教育で、できる限りの学力を子どもが身に付けて次の社会に出て行けるようにしないと、実際中学校を満足に出ておらず、仕事の面でも家庭をつくっていく上でもいろいろな問題が起こっている。将来的にも心の支援体制を整えていかないといけないと思う。
委員	いじめのところだが大人の側の対応が書いてある。子どものいじめは大人のいじめと違って死に直結しており、今日本中で最も関心のある子どもの問題である。そんな時にこんな書き方でいいのか。大人の側の対応を中心とする施策ということであればいいのかもしれないが、根本的にいじめをなくしていくということであればこれではどうかと思う。どこまで大人の側が、真剣に深刻に今の子どものいじめに対して考えているのかが疑われてしまう。これではちょっと言葉足らずか。
会長	豊かな心の基本は何なのか。命の問題であり人間関係の問題であるということ。いじめや不登校の問題をひとくくりにしていいのか。いじめの問題と不登校の問題はまったく根本が違うと思う。確かにいじめが原因での不登校もある。しかし、心の病での不登校もある。施策として、いじめと不登校を分けて、学校・保護者・子どもの立場毎にどうしていくかを明記してはどうか。今後益々深刻な問題が出てくる可能性がある。
委員	先日、市同研が市人研に変わったが、5年先を視野に入れた時に市教委としてはどう考えるのか。
事務局	市同研の動きも含めて内部協議中である。意見もいただきながら考えていきたい。今まで市教委としては、「人権同和教育」を進めていくと言っていた。あえて「・」も入れていない。人権教育と同和教育は別々のものではなく、人権教育の中に部落問題学習も当然入っているということで、一般的に人権教育といわれる中身として我々は部落問題学習を絶対忘れないという意味合いを込めて「人権同和教育」と称していた。ただ、人権教育は、部落問題をなおざりにするのではないかというメッセージ制がある状況があったので、逆に部落問題学習をやっていくというメッセージを出していた時期があってこれできていた。ただ、市人研になったことからすると、そういう状況を乗り越えて、人権教育の中に部落問題学習をきちんと位置づけた中身として認知されているという状況が来たとすれば、市教委としても人権教育でいけるのではないかという思いもある。もうちょっと学校とも詰めていきたいと考えている。
委員	市人研に変わった経緯についてはいろいろな意見を照らし合わせながらやってきたものなので、市教委だけが「同和」という言葉を残すことについては、現場の人間としては違和感があるし足並みが揃わないと感じる。同和という言葉を外して、社会教育と学校教育が一致して方針を示していただければ、学校の方も動きが取りやすい。バラバラでは後退する可能性がある。
委員	市同研の名称変更について、私は今でも反対である。何の意味があるのか。ま

	してや23対9で決定したことは、全会員の総意でも何でもないわけで問題がある。同時に、「同和」という言葉があることに支障があるかどうかについて答えていない。差別が堂々で行われているご時世の中で、大人達は人権についてもっと感心を高めなければならない。そういう意味で言うならば、市同研の名称変更と人権同和教育とは、全く位相が違くと割り切って意見交換をしなければならないと思っている。あくまであれは自主的組織である。
教育長	意見をいただいたので議論していく。市人研に名称変更した意味合いは大きいとは思っている。
事務局	説明 (2) 第2期倉吉市教育振興基本計画 学校教育課重点施策(案)について 重点施策⑤～⑪について
会長	⑤についていかが。
委員	くらし風土記は子どもだけでなく大人にも反響がある。中学生だけではもったいない。大人が子どもに家庭で教えたり、一緒に話したりできると最高の内容だと思う。くらし風土記が大人に伝わるようになればいい。
委員	倉吉検定の実施についてだが、小・中・社会人とレベルを考えていただいて、最終的には倉吉市観光ガイドの資格の条件の1つにして、中学生でも観光客に説明ができる力を持った子はボランティアガイドができるようにしてはどうか。そういう目安として検定を考えていってはどうか。
教育長	観光ガイドの方もコピーして使っている。
会長	⑥についてご意見は。
教育長	安倍総理は、コミュニティスクール(CS)を全学校で実施するという目標を出している。それが、倉吉市が今やっている地域学校委員会で大丈夫か心配している。地域学校委員会には人事権がない。CSとなると、校長が出した教育課程を委員が承認するという権限を持つてくる。市としてはここまでは踏み込めなかった。しかし、国としての方向性が決まると、市としても対応せざるを得ない。国の方にそのことを相談してみたら、「倉吉はかなり近いところまできている。あとは人事権の問題。」と言われた。学校が困るようなことをしてはいけない。ある委員が言ったようにまずは理解してもらわなければならない。まずはそこが先。教育を語る会の充実が一番大きなところになる。次世代育成に関してはもっと協力していく必要がある。土曜授業を始めて、地域からもメニューの要望をよく聞くようになってきた。ここはもう少し頑張れるかと思っている。
委員	アメリカで失敗を重ねてきたことを、なぜ日本は入れるのか。あまり積極的に取り入れる必要はないではないか。法律で決まったらしょうがないが。
教育長	学校の最後の責任は、校長が持つべきであると考えている。学校が困らないようにしたい。地域の方も自分達に責任を問われても困ると思う。倉吉型のCSをどう模索していくかが課題。
会長	⑦について
委員	子ども達だけでなく、保護者世代にも次世代育成をしていかねばと思う。子ども・保護者と地域がどう出会い、関わり合っていくのか。その仕組みをつくっていかないと、安定した心豊かな地域になるのか不安に思う。「保護者も子どもと一緒に地域に育ててもらった」ということをつくっていかないといけない。
委員	子ども達に地域の活動に参加させることを通じて親も動く。親世代の意識を高めないと本当に問題。子どもと一緒に親が地域の出会いの場に来れば、少しずつ変わるのではないか、地域の良さも分かるのではないかと思う。地域の方は益々忙しくて大変になるが。地域に責任を持たせていくことを通じて、地域も変わろうじゃないかという意識を持たないと。我々も仕向けていかないと。
教育長	P T A方の意見はいかがか。
委員	保護者が地域に出ていないということか。

委員	子ども達の参加を通じて親も出てきて、分かることで変わるのではないかということ。親に対する不満ではない。地域の方も、子どもの参加に対してある意味ではバリアをつくっていたと思う。例えば、ある地区の運動会に中学校の生徒が呼ばれて役割を果たしたということがあったので、我が地区の運動会に中学校の生徒を呼んだ。5～6人の参加だが変わる。その積み上げも地域の側の責任だと思っている。保守的な意識が強い地域と分かるのもよし。もっと変えなくてはならないと気づくのもよし。教育を考える会でも、親世代だけではなくてそれ以外の世代の方にも参加していただきたい。積極的に地域の方も呼びかけていくことを通じて、親も子も変わりはないかという意味。
委員	地域に愛着と誇りというのは、どんな人に出会って大きくなったかが大事。地域からの呼びかけもしているが、そこに家庭からの押し出しがほしい。そして、帰ってきた子ども達に「よう頑張ったな」という声をかけてもらえると、また子ども達も弾んで出るようになる。子どもの様子を見るだけでも、保護者も変わるきっかけをどんどんもらえると思う。今、世代の垣根をとっているような事業をやるようとしている。お年寄りも子どもも、お互いが役に立ったと思うと弾みが出る。生きがいも出て来るし学習意欲も生まれてくるのではないか。大事なのは人のつながりをどう丁寧につくっていくか。地域学校委員会に企業の関係も入れてみてはどうか。職場体験もあることだし。学校だけでは難しい部分を担っていただけのでは。
教育長	中学生は職場体験をする訳だが、実施前に企業の方に来てもらって面接するか、実施後に「よくやった」と褒めてもらうようなつながりはできないものか。
委員	それは思う。3日間職場体験をするが、企業側が本人に対して評価するものが何もない。短大の場合は成績になるので評価がある。遅刻せずに基本的な生活習慣が守れたかとか、明るい声が出せた・きちんと返事ができたなど、仕事のイロハの部分での目標をもって来られたらもっと勉強になるのかと思う。面接にも生徒がわざわざ来られるし、学校の先生も何回もお願いに来られ大変だとは思いますが、肝心の生徒に還元するものがない。あれば形になるものでもうちょっと褒めてあげたい。
会長	⑧についてどうか。
事務局	日本語指導教室だけでなく、外国にルーツを持つ子ども等への支援まで消してしまっているが、今後倉吉でも課題になってくることが想定されるので検討させてほしい。
会長	⑨についてはどうか。全体を通してはどうか。
委員	全体的に思うことだが、教育にすごく期待が寄せられている。外国から見ると、日本の義務教育はものすごくいろいろなことに期待をされながら、よくこれだけの成績が出ているなどビックリされる。あれもこれもとあまり期待をし過ぎると学校が疲弊する。自転車の乗り方やあいさつの仕方等、本来親ではないかということも何でも学校に期待して、社会の問題は学校の教育によって何とかしてほしいという傾向が強い。これが実際に現場に降りてきた時に、すべてのことを網羅して頑張ると逆に効果がないと思う。各学校が特にやりたいことに対して、教育委員会が支援をするスタンスで臨んでいただけたらと要望したい。
会長	第1期の時に、倉吉の教育の土台は家庭教育の充実を図ることを大きな柱としてあげた。他の地域の人にはびっくりした。だいたいものを書くときには、学校教育・社会教育、そして家庭教育は下の方にちょっと。大変高く評価していただいた。今出たように、あれもこれも確かに多い。教員が忙しすぎるのも何とかしたい。倉吉の教育がちょっとでも進んでいけるように。
教育長	学校学級の適正規模について、5年経過したので向こう5年間の計画を練らなければならない。これについては、次回出させていただきたい。方向性を数行で出したいと思うのでよろしくお願ひしたい。

会長	この計画は、最終的には学校教育審議会としてまとめなければならないのか。
教育長	製本するのは2月だが、原案として意見をもらいたいのは12月までになる。未来いきいき創生本部との兼ね合いで早めに進んでいる状況がある。
会長	ここで出た意見を教育委員会の立場でまとめていく流れである。
事務局	併せて学校にも意見照会をしており盆明けくらいには出てくる。そういう意見も含めて、再度練っていくということにさせていただきたい。今度は9月末か10月初めくらいの審議会でご意見をいただき、学校教育部門を固めていきたい。
4 閉会	